

二〇二二年度 公募推薦入学試験問題

小論文

(国際ビジネス学科)

試験日 二〇二〇年十一月二十八日(土曜日)

開始時刻 午前十時三十分

終了時刻 午前十一時三十分

注意事項

- 一、この冊子は表紙を入れ三ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明などがあつた場合には申し出てください。
- 二、小論文はかならず所定の解答用紙の指定されたところに記述してください。
- 三、解答用紙の受験番号欄(右端の上下に二か所)には、かならず受験番号を記入してください。
- 四、解答用紙への記入は黒鉛筆を、消す場合はプラスチック消しゴムを使用してください。
- 五、解答用紙は試験が終了したら、かならず提出してください。
- 六、試験室内で配布された問題用紙は、持ち帰って結構です。

◇M1 (541-1)

問題

次の文章を読み、「設問一」と「設問二」に答えなさい。解答はすべて解答用紙の所定欄に記入しなさい。

オオムラサキ、ミヤマカラスアゲハ、ゴマダラチョウ……。こうしたチョウを見かけたり、捕まえたりしたことがありますか。

私はまだ駆け出しの記者だった30年ほど前、オオムラサキが羽化する場面を取材したことがある。

青紫色のオスの羽に浮かぶ黄や白の斑点が印象的だった。日本昆虫学会が選んだ国蝶(こくちょう)で、当時はそれほど珍しいチョウではなかったように思う。

いま、この美しいチョウが年に16%という勢いで急激に減っている。そんなショッキングな事実が、環境省と日本自然保護協会の調査でわかった。オオムラサキだけでなく、ごく普通のチョウの多くがどんどん減っているらしい。

2008年から10年間、全国の里地や里山を調べてみたら、対象のチョウ87種のうち約4割が10年あたり30%ものペースで減っていた。絶滅が危惧されるほどの減少率である。もつとも深刻なミヤマカラスアゲハにいたっては、年30%を超えているという。背景として考えられるのは里地や里山の変化だ。

開発によって野山の自然が失われたり、逆に、田畑や森林が放棄されて適切な管理が行き届かなくなったりする例が増えていく。外来種や気候変動、環境汚染などの悪影響についても気になるところだ。

里地や里山は国土の4割を占め、生物多様性のゆりかごになっている。チョウたちは、大切なゆりかごが壊れつつあると教えてくれているのではないか。

かわいらしく舞う姿を見られないのは寂しいけど、チョウが減ったくらいで大ききな……。そんな声も聞こえてきそうだが、たかがチョウと軽んじてはいけない。

大阪府立大の石井実・名誉教授によると、チョウは卵から幼虫、さなぎ、成虫という一生のさまざまな場面で、ほかの昆虫やクモ、野鳥、トカゲなど多種多様な天敵に食べられる。「いわば食物連鎖の要であり、チョウがいなくなると困る生き物が多い」

生物多様性が損なわれ、生態系のバランスが崩れていけば、いずれ私たち人間も手痛いしつべ返しにあうかもしれない。

◇M1(541-2)

チヨウたちの静かな訴えに耳を傾けなければ。^B

(社説余滴 村山知博「チヨウたちは静かに訴える」朝日新聞 2020年2月2日付、朝刊より)

◇M1(541-3)

〔設問一〕 傍線部B「チヨウたちの静かな訴え」とは何か。100字程度で書きなさい。

〔設問二〕 傍線部A「人間も手痛いしつべ返しにあうかもしれない」とは、どのようなことを指すか。また、そうならないためにどうすれば良いか。あなたの考えを600字程度で述べなさい。